

の諸名選手を以つてし愈々充實味を増した
吾野球部は先づ小手調べとして

對濟々疊 十二對〇勝

對工業 十一對二勝

對熊本OB 七對二勝

を屠り恆例の招魂祭ゲームに出場。先づ熊
鐵軍と組み津田の好投、池田の好守中野二
宮等の好打等、新選手の活躍物凄く多年來
の仇敵熊鐵軍を五對三にて破る。翌日工業
クラブと決勝戦を行つたが前日の疲勞と弱
敵と見て取つた油斷より九對三にて敵に勝
を讓る。グラウンドの修理意外に長引き爲に
練習充分ならず思ふ存分技倆を發揮し得な
かつたのは遺憾であつたが今や全く修理成
り猛練習の曉には來るべき佐高大分高商戦
及び七月の高専大會に於ける吾野球部の活
躍は將に括目して待つべきものがあらう。
因にメンバーは左の如し。

田田(弟) 木(弟)
津島 栗中 島佐二 山池下 島中大 鷲
P. C. I. B. H. B. H. B. S. S. O. F.
マ 坂

部 報

庭 球 部

雪と霜との爲にすつかりコートが破壊さ
れた僕等は其でも三月の進級試験が済むと
直に一週間の猛練習に取かゝつた。始めコ
ートのコンディションは悪かつたんだけど
二三日たつたら大抵は使へる様になつてあ
た。去年の七月の惨敗に具へる爲に期間は
短かつたんだが來るべき新學期の豫備練
習としては逆も有効だつた。一週間の練習
期間を経て部員一同皆進級の喜びを胸に抱
いて僕等は櫻漸く咲かんとする熊本の地を
五高のコートに暫くのお別れを告げた。
新學期に入つて新入生より三名の部員を得
て亦練習を開始した。
四月下旬から福日主催の全九州トーナメン
トが開かれた三谷、松下、松尾の三君出場
した。

第一回戦(シנגルス)

鈴木(山高) 6—4 松下(五高)

山高の鈴木に松下は昨年の高専大會に於て
無慘にも敗れたのである。松下は復讐戦の

意を以て大いに頑張つたがポイントに弱く
遂に復讐成らなかつた。

中山(九大) 6—0 松尾(五高)

松尾近來漸く當り出して好調を持してゐた
がしかし老巧なる敵の術中に陥りてセット
オールでしかも第三セット4—0とリード
してゐながら敗れたのは返す返すも惜しか
つた君の自重を望むものである。

宮川(西南) 1—6 三谷(五高)

三谷の獨り舞臺でスクリーンは閉ぢられた
かくしてシングルス第一回戦の勝者として
三谷獨り残つた。

第一回戦(ダブルス)

中山(九大) 3—6 三谷(五高)
福島(九大) 2—6 松下(五高)

奇しくも亦シングルスの松尾の勝者中山組
と合つて僚友の報復は成つた。

第二回戦(シングルス)

吉田(福俱) 2—6 三谷(五高)

三谷力戦は努めしも少々あがり氣味で片附
けられてしまつた。

シングルスは遂にセカンドラウンドで全滅してしまつた。

第二回戦(ダブルス)

深尾	11	3	三谷	9	6
中島	6	1	松下	1	9
			(五高)		

長崎高商の大將組にあひ第二セットで決するかと見たが高商組の回復急で遂にミスして第二セットを失ひ其の儘押し切られてしまつたのは何と云つても惜しかつた。斯くて戦績は余りよくなかつたが收穫は大きかつた。

五月十日に水俣にて對抗試合をニューメンバアーにやる豫定である、更に十七日には南九州硬球大會が開かれるが只ベストを盡して戦ふのみ、終りに僕等は諸兄の見を辱かしめざる様一路夏の大會への精進を續けてゐる事を報告迄。

一九三一、五、六、田 上、

蹴球部報

春陽東光原にふり注いで一ヶ月、最初の試合たる對九大戦は目睫に迫つて來た。三

月、永杉、芝地、有本、北山の諸先輩を送り、加ふるに後藤、丸田、越智の經戰者の出場不可能は吾が新チーム構成上致命的な故障ではあるが、四月以來の合宿猛練習は新人の熱心な努力と相俟つて必ずや昨年に劣らざる實質の向上を示すであらうことを信じ且つ希ふ次第である。數多くの優秀なるチームと交ることの出来ない吾々チームには、對九大戦がなによりも貴重なる標的であつて、この試合と、七月に迎へるコーチャアの教示とが唯一の新技術習得の楔となるのだ。

九月、愈々本當のシーズンとなつては、吾々はたい熱と意氣で以て精進に精進を續けるのみだ。十月には中等學校大會がある昨年には遠く長崎師範、中津中學等參加入校に及んだが、近來中等學校に於ける「蹴球」の普及は必ずや今年に來てはより多數の來會をうながすことと思ふ。十一月、七高、佐高との三高リーグ、蹴球協會支部の日本選手權大會九州豫選、福岡遠征等々多くの試練を経て、十二月下旬の九大主催全

國高専大會へ翌年一月東京に開かれる東大京大聯盟の全國高校大會へ必勝を期して吾々は猛進する。この最後のものを幾多先輩の敗慘の涙に報ゆるべく吾人の唯一の目的とする所のものである。終りに一日校内大會を行ふ。凍てついた大地の上に於ける諸級友の奮闘は吾々部員に大いなる欣びを齎すものである、と同時に吾々は此後尙一層多數チームの參加と、各人の技能の向上とを衷心より希望するのである。

以上、吾部の現状の一端及び行事の概略を述べて來た。

最後に過去一ケ年の戦跡をあげる。

五月十日、福岡遠征、對九大一回戦

二一敗

對九大二回戦

四一〇敗

六月一日迎九大 對九大一回戦

二一〇敗

對九大二回戦 一一一引分け

十一月三日佐賀遠征 對長崎高商

三一勝

對佐賀高校 四一〇勝